

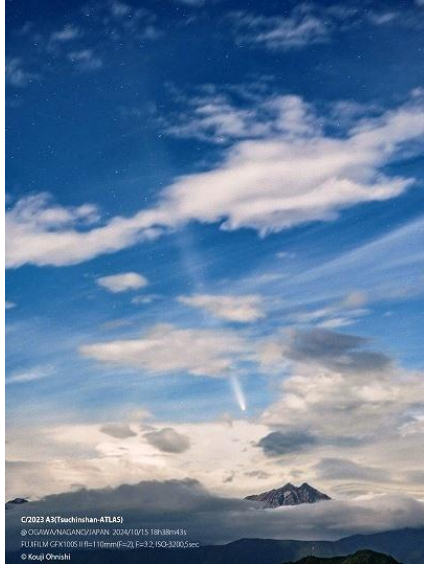
「無限の瞬間 — 宇宙と出会う光景を捉える」

～大西浩次・星景写真展～

2025年10月11日（土） ～ 10月26日（日）

10月31日（金） ～ 11月14日（金）

会場 大町エネルギー博物館 （大町市平 2112-38）



地球から夜空を見上げると、星々は一日に一度めぐり、季節ごとにその姿を変えていきます。それは、地球の自転と公転が刻む、規則正しい宇宙のリズム。星たちの一生は、私たち人間の生の時間と比べると、数百万倍から数億倍も長く、ほとんど変わることのない永遠の世界のように感じられます。けれども、私たちが立つこの地球には、水があり、大気があり、大地と海があります。星空の動きが永遠に見えても、地球上の光景は一瞬ごとに異なり、そのとき、その場所、その空気の中でしか出会えない「瞬間」があります。「地球」に生きる「わたし」が「宇宙」とつながるそのとき——それは、まさに一期一会の光景です。

会期前半（10月10日～28日）では、星や月、そして地球の自然が織りなす「一瞬の天の出来事」を中心に、地球上の「わたし」が見つめた記憶として表現します。

会期後半（10月31日～11月14日）では、昨年秋に出現した紫金山・アトラス彗星（C/2023 A3）の記録を、「わたし」が見上げた記憶として紹介します。澄みきった星空に輝く彗星、水蒸気を含んだ夜気の中で光をにじませる彗星、紅葉の森から見上げる彗星、舞い落ちる葉の向こうに浮かぶ晩秋の彗星——。それぞれが、地球に生きる「わたし」と宇宙との出会いの一瞬を映し出しています。

この写真展を通して、皆さんが星と宇宙、そしてその一瞬のきらめきに、心を重ねていただけたなら幸いです。

～「大西浩次(おおにしこうじ)」プロフィール～

1962年富山県生まれ、長野県長野市在住。博士（理学）。長野工業高等専門学校リベラルアーツ教育院教授、日本星景写真協会理事、国際天文学連合(IAU)会員、日本天文学会会員、日本天文教育普及研究会、「長野県は宇宙県」連絡協議会会長ほか。

毎日小学生新聞にて「ガリレオ博士の天体観測図鑑」を連載中。第4回田淵行男賞入賞、個展多数。

いま、「長野県は宇宙県」を合言葉として、天文文化の研究と天文学の普及活動を行っている。

初めての天体写真は小学校2年生の時の皆既月食（1972年1月30日）、意識的に「星景写真」を始めて37年目となる。

地球と宇宙と人のつながりをテーマに、地球の空気感を大切にした Nature Photo としての「星景写真」を目指している。